



人と自然 人と人がつながる ガーデンミュージアムをめざして

どこにもない
魅力まちづくりの舞台開き



人をつなぎ 五感で楽しむ 質の高いみどり空間

草津川跡地の全域を一つの「緑軸」としてとらえ、「ガーデンミュージアム^{※1}」というコンセプトのもと、まちなかと琵琶湖をむすび、人と人をつなぐ、全国に類を見ない草津市ならではのオンリーワンの魅力空間づくりを進めていきます。

周辺市街地との連携・連続性にも配慮しながら、市民、事業者、行政などが一体となったエリアマネジメント^{※2}手法により、永く市民に愛され、多くの人を訪れ、長い年月にわたり利用されるにぎわい空間として都市価値の向上につなげていきます。



周辺の農空間と連携し、環境にやさしい農業をテーマにしたガーデンを形づくりします。新鮮な食材提供など、マルシェガーデンとも連携します。

エコ・ファーム
ガーデン



Eco-farm Garden
エコ・ファーム
ガーデン

環境共生をテーマに、雑木林や水辺で自然と遊び・学ぶ空間を創ります。

ビオガーデン



Bio Garden
ビオガーデン

Natural
ナチュラル

※1 ガーデンミュージアム：草津川跡地の空間像を示した言葉。「人と自然」「人と人」がつながり、時の流れの中で成長し、様々な活動を通じて創出される、生き生きとした風景とします。

※2 エリアマネジメント：一つの目標に向かって、地域が長い年月をかけて発展し続けられるようにするため、市民、事業者、行政など多様な主体が一つの組織の中でつながり、役割分担、共同行動できる新しい仕組みをつくるものです。

ガーデンミュージアム



ナチュラルガーデン ありのままの自然の花や木の姿を活かし、植物の生きる力が伝わる、安らぎや癒しを基調としたガーデニング手法により組み立てます。

マルシェガーデン 地場産の品をあつかう市場、カフェ、レストランなど、集客機能を備えたにぎわい空間の核とします。

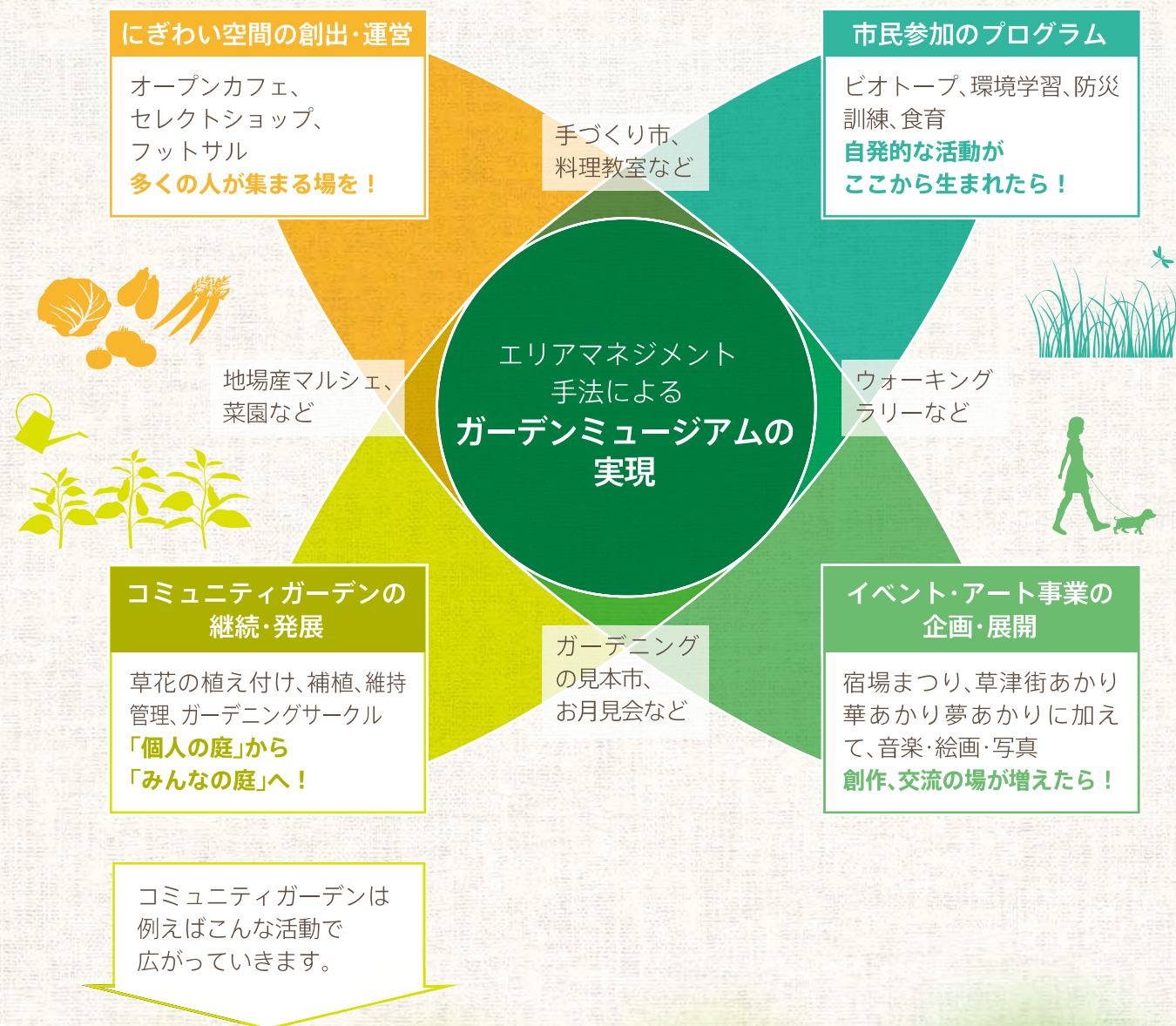


エコ・ウェルネスガーデン 健康づくり、子育てや遊びなど市民の憩いの場となる空間を創ります。



ガーデンミュージアムの取り組みを一緒に進めましょう！

にぎわい空間創出と併せて、広大な草津川跡地空間の管理・活用も一体的に行う必要があります。その一つとしてエリアマネジメントの考え方にもとづく仕組みが求められます。市民のみなさんが幅広く参加されて活動を行う例には次のようなものが考えられます。



ガーデニング講座
ガーデンツアー

ガーデニングサークル
グリーンキーパー

民間事業者の参画
専門家によるサポート

花と緑 空間の拡大
街角ガーデンづくり



広大な草津川跡地を私たちの手で 新たなまちのシンボルとするために

三つのデザイン手法の導入

景観
デザイン

コミュニティ
デザイン

防災・都市環境
デザイン

【計画理念】
歴史をつくる、人と自然の合作

空間目標

時の流れを見つめる場を提供し、心身が癒され 生きる力が得られる場

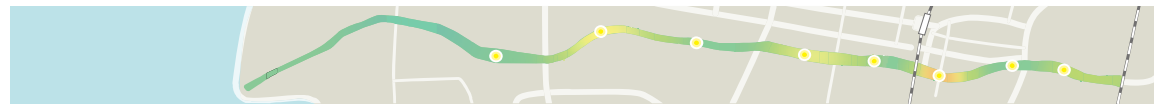
デザインキーワードと空間イメージ

「架かる」…天井川の軽やかなみどり。

市街地より高い草津川跡地を、イメージ的に「まちに架かるみどり」ととらえます。



「楽しむ」…香りを楽しむ。風や鳥の声。食するみどり。



「つなぐ」…多くの市民活動(にぎわいの空間や活動)をつなぐみどり。

にぎわいは市民活動のつながりと考え、その活動をつなぐことを草津川の役割ととらえます。

景観デザインの取り組み

計画理念に基づいて豊かなみどり空間を実現するために、
以下のような景観デザインコンセプトを設定します。

※3 ヒューマンスケール: 人と空間との関係を、人間の身体や体の一部分の大きさを尺度にして考えること。人間の感覚や動きに適合した、適切な空間の規模や物の大きさのこと。
※4 ユニバーサルデザイン: 高齢であることや障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるような製品や建物、生活空間などをデザインすること。

景観デザインにおけるコンセプト

歴史性の継承

天井川、堤体、街道といった固有の空間特性を意識し、新しい空間化につなげます。



自然との共生

未来に向け「自然と共にいきる」ライフスタイルを目指し、自然環境、草木との一体感などを基本とします。



人間性の尊重

ヒューマンスケール※3、親しみやすさ、ユニバーサルデザイン※4といった要素を重視します。



美しい風景としての菜園や動物とのふれあい牧場など、教育・セラピー・交流の場として活かすイメージ

コミュニティデザインの取り組み

いかに質の高い空間を整備しても、それが使われなくては意味がありません。市民が「ガーデンミュージアム」という空間に愛着を持ち、永く利用され続けるためには、利用する市民がつくる側にも立って、計画策定の段階から参加し、共に空間を育てていくことが重要です。そして、人と人とのつながりの輪、活動の幅が広がれば、さらに様々な形で発展・深化していくことが期待されます。

そのような空間づくりを進めるためには、まずは市民参加のためのコミュニティ形成の場や土台づくりが大切であることから、空間を様々なかたちで共に考え、行動する熱心な担い手を発掘していきます。そこから人のネットワークをたどってコミュニティづくりを促していきます。

このように、市民をはじめとした様々な活動主体のコミュニティづくりを促すことにより、施設の整備だけでなく、計画策定などの過程や整備後の管理・運営、利用を含めた総合的な空間づくりに主体的に関わっていただき、継続的に「ガーデンミュージアム」が利用される仕組みをつくることを、コミュニティデザインとします。

持続可能な協働の取り組みが進められるように、以下のコミュニティデザインのコンセプトを設定します。



コミュニティデザインにおけるコンセプト

公共空間づくりへの市民参加

市民が共に学び、考え、つながりを強める場をつくります。



市民が主役となる行動計画

創作、交流の場など、市民の自発的な活動を展開します。



市民と行政の協働による仕組み

多様な主体が連携するエリアマネジメントの仕組みを導入します。





雑木林や草原の雰囲気の中で、健康づくりや子育て、野外イベントができる自由な広場のイメージ



街と草津川跡地のガーデンミュージアムのつながりを強くし、新名所づくりとする工夫のイメージ



都市の中で、自然と共生するビオトープやせせらぎと共に、お茶や食事、買い物を楽しめる場づくりのイメージ

防災・都市環境デザインの取り組み

阪神淡路大震災や東日本大震災における教訓から「なんとしても人命を守る」という考え方を基本にすえて、ハード・ソフト施策を総動員して防災性の高い空間づくりを目指します。

草津川跡地の広大で、連続した空間は、地形そのものが高い防災性を備えたハードといえます。

まず、日頃から多くの人がよく利用する仕組みづくりと共に、日常時の市民活動の中に防災の取り組みというソフトが合わさることで、いざという時に、日々の習慣的な防災意識を思い起こし、自助・共助を可能とする空間づくりを目指します。

